

## 「クラブラーニング委員長フリーディスカッション会議」

2024年7月2日(火) 15:00～16:30

### -----概略-----

2024年7月2日(火)、相澤ビル8階にて地区初の「クラブラーニング委員長フリーディスカッション会議」が開催されました。資料や導入レクチャーなしで、最初からクラブの情報交換を行う目的のこの会議には20クラブが参加しました。

**進行:** 参加者は受付で指定されたテーブル(A～Dの4ブロック)に着席し、各テーブルにはファシリテーターが司会を務めました。当日急遽指名された方もおり、一部混乱もありましたが、ロータリアンとしての誇りを持って活発な議論が行われました。

**内容:** 各ブロックでは、参参加者全員から事例や今後の計画についての発言がありました。また一部の参加者は資料も準備しており、大きな成果となりました。有効な資料や発言内容は、後日地区ラーニング委員会がまとめ、地区内全クラブに配信されます。

**総括:** 参加者の協力により素晴らしいフリーディスカッション会議となりました。最後に、今後の地区ラーニング委員会が主催するセミナーなどへの協力を求めました。

### -----議事録-----

ガバナー挨拶：佐々木辰郎ガバナー

皆さん、こんにちは。本日はお集まりありがとうございます。ガバナーとして挨拶するのは本日が初めてで身が引き締まる思いでここに立っています。地区の活性化のためにご協力お願いします。この委員会は研修からラーニングに名前が変わりましたが名前だけでなく全てが変化しています。地区としてもこの変化を取り入れ皆さんにクラブの活性化を考えていただきたいと考えています。新しい試みですがこの時間を有意義に使ってください。1年間、私と一緒に頑張りましょう、よろしくお願いします。

初めての会議でございます。先ほどのフリーディスカッション(ラーニング委員長)においては進行、記録、ご苦労様でした。委員会メンバーが少ない中、知恵を頂きながら討議会ができたと思いました。これから、この委員会をさらに充実して頂きクラブが活性化できますように私とともに一緒に頑張って行きたいと思います。必ずやれば出来ると思っています。よろしくお願いします。

研修委員長挨拶及び主旨方針：田中 賢三 研修委員長

皆さん、こんにちは。本日は平日でありますが大勢のラーニング委員長にお集まりいただき、ありがとうございます。各クラブのラーニング委員会が何をしてきたのか、何をしたいのかを発表していただき、それらをまとめて我々が報告書を作成し皆さんに配布させていただく。意見交換、情報交換をしてアイデアを出しそれをクラブに持ち帰ってクラブで発展していただく会議に

したいと思っています。会歴の長さでローターの求めるものが違うと思う。若い時は自己の成長、ローター経験が長くなると他者への成長に移ってくる。自分の実感としても年齢としてもそう考える。

「駆け足は10秒フラット傘寿かな」以前は準備体操しないで走っていたし 20キロを早く走っていた。しかし今は準備体操をしてゆっくりジョギングを20~30分で駆け足をすると10秒でふらつとするのが現状。80歳になり年齢とともに本能的な成長から精神的な成長に移ってゆく。ロータリーはどなたにも満足感もってもらう考慮が必要である。いろんな方面にわたり議論してまとめていただきたい。

お知らせ：

成田七海さん 7月27日 藤沢市民会館小ホール チェロコンサート 他地区の財団学友

藤原若菜さん 8月4日 茅ヶ崎文化会館 パンフレットが出来次第お伝えする。ウクライナ支援のチャリティーとして行う。

#### -----クラブラーニング委員長フリーディスカッション会議-----

##### A テーブル

ファシリテーター：田中 賢三 委員長

鈴木 康仁（三浦 RC）

小倉 恵子（藤沢南 RC）

佐嘉田 英樹（相模原ニューシティ RC）

小島 富司（本厚木 RC）

山田 雅孝（平塚西 RC）

議事録：地区ラーニング委員会 奥田 経男（相模原橋本 RC）

##### 【要点メモ】

- ・夜間研修会を2か月に1回実施 まずロータリー用語から
- ・クラブ戦略計画を年2回程度
- ・新しい会員に行動計画を説明、地区委員からのレクチャーの機会を設ける。
- ・チャーターメンバー（最年長94歳）からクラブの歴史を話してもらう機会を作っている。
- ・わかば会（入会4年未満）年4回1時間勉強会と残りは懇親会を実施し、事前に資料を渡している。
- ・用語集（東京中央 RC のものを編集）を全員に配布している。
- ・ポリオ撲滅運動の原動力になった東京麹町 RC の山田・峰会員の奉仕活動についての紹介

東京麹町ロータリークラブ [www.koujimachi-rc.jp](http://www.koujimachi-rc.jp)

麹町ロータリークラブの会員であった故山田彝さん、故峰英二さんのお二人は早くからポリオの惨状に深い関心を寄せ、南インドでポリオに苦しむ子供達にポリオワクチンの供与を2回に亘り実施され、その状況をつぶさに報告されました。この報告がポリオ撲滅運動提唱の原動力となり、東京の2地区を通じ国際ロータリーのポリオプラス撲滅運動に発展致しました。

- ・ロータリーガイドブック（2022-23年度第2590地区研修委員会作成）がクラブで配付された。

※委員長より情報の水平展開の要請が強くなされた。

## B テーブル

ファシリテーター：佐々木辰郎 ガバナー（大和田園ＲＣ）

山田 和彦（座間ＲＣ）

芦川 浩（平塚湘南ＲＣ）

高橋 泉（秦野ＲＣ）

杉本 剛昭（茅ヶ崎ＲＣ）

議事録：地区ラーニング委員会 峠住委員（相模原中ＲＣ）

① 皆様のクラブに於いて、ラーニング委員会は何をしてきましたか、そして今年度からどのように活動していくりますか？

- ・定期的な研修会を行い、新会員にはロータリーの歴史と重要な転換点を主に伝えている。
- ・以前は情報委員会や炉辺会合で学んだ。最近は機会が作れず、ロータリーを理解しないまま辞めしていく人がいる。
- ・飲み会に新会員に参加してもらい、そこでロータリーや地区情報を話している。
- ・以前はスポンサーが新会員の指導をしていた。現在は5年未満の会員を対象に「原点の会」を年2回開催。会員や例会進行の質を上げ、次世代に繋がなければならない。
- ・2か月に1回研修委員長の卓話。新会員にはメンター制採用。先月から新会員の会を、「4つのテスト」などテーマを決めて開催。

佐々木 G 「ロータリーをよくわからないまま辞めるという点について意見があれば」

- ・地区増強委員会のデータでは1～3年目で辞める人が増えている。
- ・クラブの魅力、会員の魅力を高めていくことが必要。
- ・1～2年で辞める人は無理な増強で入っている。ロータリーを理解して入会してもらう。
- ・誰でも入れるロータリーは魅力がない。一定のハードルが必要。
- ・新会員が疎外感をもたないように、例会の前にあらかじめ声をかけると出席する。
- ・責任を与えると積極的になる。
- ・地区増強委員会としては、会員を増やすか制限するかは各クラブに任せるが、将来的に人数が減っていくことを考えて下さいと言っている。

佐々木 G 「私はロータリーは自己研鑽の場だとずっと言っている。ある程度の人数がいないと、楽しく人生にプラスになるロータリー活動ができるのか」

② ロータリー行動計画はクラブ活性化のために考えられたものですが、皆様のクラブではどのように考えていますか？

佐々木 G 「行動計画はロータリーの活動がどうやったら高められるか、クラブが活性化できるか。

行動計画がクラブの中でどう生かされているか」

- ・行動計画のレベルだと知らない人もいる。寄付金とかは共有されているが、行動計画をもっと前面に押し出して強調した方が、ロータリアンのレベルが上がると思う。
- ・行動計画を会員は理解していないといけないが、それ以上に例会出席や奉仕活動の充実を行動計画の中に生かすことがクラブ活性化に繋がっていく。

・行動計画をどうクラブに生かすのかという点では、実施できていない。

・全部なかなか覚えられない。

佐々木 G 「行動計画は一字一句覚えなければいけない、というものではなく、みんなが今までとは違った行動をするための指針であって、心の持ち方の問題。」

・(RI 会長方針で) 中核的価値観の中でなぜ多様性を特に強調しているのか。

佐々木 G 「自分のクラブで何か活性化のためにやっていることがございましたら、是非発表して下さい。」

・私の年度から大会をやったが、子供たちと父兄が 300 人くらい集まると、一気に知名度が拡がる。

地域の中で活動を継続していくことでロータリーの名前が浸透していけばいい、と思う。また媒体で報道してもらえると、多くの人に奉仕活動を知ってもらえる。

佐々木 G 「我々が入った頃は炉辺会合で先輩が定款を持ってきて上から読めと。そうやってみんなで勉強させられた」

・「原点の会」は 5 年未満の会員を対象にずっと続いている。

・(炉辺会合にこだわらず) 新たに作っていいということですね。

・今年はマイロータリーのラーニングプログラムで勉強して下さい、ということを言っていますが、地区でもクラブでも委員会の中で担当を分散して、総合的なことで話し合う体制でいいと思う。プログラムの中には価値観なり行動計画なり全部入っているので、勉強してもらいたい。

---

## C テーブル

ファシリテーター：佐藤佑一郎 パストガバナー（津久井中央 RC）

小林 貢 地区幹事（大和田園 RC）

今井 澄江（鎌倉中央 RC）

鈴木 洋子（大和中 RC）

佐野 友保（秦野中 RC）

鈴木 輝元（小田原 RC）

議事録：地区ラーニング委員会 木村 隆也（小田原 RC）

① 皆さまのクラブにおいてラーニング委員会は、何をしてきましたか？そして、今年度からどのように活動していきますか？

・ラーニング担当者といって「ロータリーの友」の中から抜粋した記事を会員に話をしていました。

そして、必要に応じて情報リーダーが地区の話をしていました。

・コロナ禍で炉辺会合ができなかったので、今後は年 2 回ほどベテラン会員を交えてやっていきたいと思っています。

・会長のあいさつの後に愛読書である「ロータリーの友」のトピックス的なところを取り上げて読ませていただいております。また、会員方々にも一読していただくことで、共感していただくことを一年間続けています。

- ・クラブの方針として地区リーダーシッププランに提示されているように昨年は、クラブリーダーシッププランを導入してきた。
  - 1.活動内容として効果的なクラブを実現すべき会員基盤維持、および拡大のため会員増強を強化する。
  - 2.地域社会のニーズに取り組むプロジェクトを実施する。
  - 3.地区リーダーシッププランを推進。

これらを通じてリーダー研修を行なってきました。会長経験者の方が、3年間続けて研修リーダーをやってきた。

・例会だけでコミュニケーションはできないので、炉辺会合を6から7グループに分けて動・早・静の会員で行ない、そこへ会長や幹事が参加してコミュニケーションを取るやり方を行なっています。世話人は一番若い会員がやり、進行は一番年長がります。

・先輩から教わってきた中で2005年のC.L.PがRIからきました。当クラブは、人数がある程度いますので、幹事をやるまで相当いろいろな委員長を経験し、現場を経験してから幹事になり、さらに執行部を経験してから会長になるので、会長が一番勉強してきて、さらに会長をやりながら勉強していく、それがすごく良いことだと思います。

・本年は、70周年なのでクラブ会員ひとりひとりを強化していく研修を行なっています。  
特に、さらなる10年先を考え、中堅会員への研修に力を入れています。

・3年後には50周年を迎ますが、その時までに人数を50名にしようとしております。  
そのために、今、炉辺会合を中心として、そこへ新しい仲間を呼んでロータリーの楽しさを知っていただき、入会にこぎつけるよう努力しております。  
そもそも、ロータリーはポール・ハリスが4人の仲間から始まって巡回していたので、やはりそれが一番良いのではないかと、そういうことで、炉辺会合を行ない、ゲストを呼んでいる。

・新会員の入会が無いので、中々研修会や歓迎会を行なう機会がない。

・ロータリー用語がわからないままきてしまっている会員もいる。普段は、会長あいさつ、卓話で終わってしまうので、例会以外で集まって雑談することも必要だと思います。

・新会員が入会するとオリエンテーションを必ず行なっている。

・A4サイズのロータリー用語集があり、情報委員会から入会時に渡している。

・新会員へは、なるべくわからないことが無いよう気づかいをしている。

② ロータリー行動計画はクラブ活性化のために考えられたものですが、皆さまのクラブでは、どのように考えていますか？

- ・「戦略計画」と「行動計画」は同じことですか？
- ・日本は「戦略計画」というと戦争をイメージするので、「長期計画」という名称を使っていたが、どこかで直そうということで「行動計画」となった。
- ・「クラブ計画」とは違うのでしょうか？
- ・地区とかゾーンでも持っていたらという話もあります。クラブでも推奨されていて、「行動計画」の作り方が「マイロータリー」に載っています。

- ・単年度ではなく中・長期にまたがるビジョンだとか理念だとか呼び方はありますが、日本社会においてどう呼ぶか。従来ですと長期委員会があります。
- ・「マイロータリー」の中にクラブの目標を入れていく「クラブセントラル」があるが、それを3年間作成してローリングさせることを推奨している。
- ・クラブによっては、R I から押し付けられることを嫌うクラブもあります。
- ・ビジョンを作ろうとしたが、ベテラン会員からの賛同を得ることができず、作成には至らなかった。ロータリーは、会員が楽しく集う所であるので、ビジョンを作成し会社のようになることとは違う。
- ・難しい内容ではなく例えば70周年だから会員数70名を目指すとかも「行動計画」になるのではないか。
- ・例えば3年とか中・長期計画を立てた場合のロータリーの単年度制とかはどうなるのでしょうか？また、4年目の会長は何をやるのだということにもなる。
- ・子どもの奉仕、地域の奉仕、海外の奉仕と3本立てで行なっている。「鎌倉音頭」を広め老若男女には、お年寄りが教えたりして地域の活性化ができたら良いなと思っている。会員がダンサーになり「ロータリー」の人って、こんなに楽しい人だよと広めていきたい。
- ・海の家の移動例会もあり、新宿2丁目のダンサーを呼んで楽しい中、2、3人の新しい方々がいつの間にか入会するようになったりしています。
- ・クラブの計画を作っているところですが、とにかく皆で楽しいことを行なおうとしております。
- ・とにかく「クラブセントラル」を入力していただきたい。スリーイヤーズなのでまず1年目を入れていただかないと2年目、3年目に繋がらない。
- ・「ビジョン」や「行動計画」を持っているのは1/3のくらいではないか。検討中のクラブはいくつある。
- ・古いクラブほど「ビジョン」「行動計画」を持たない。ロータリーは単年度という考えがあるから。
- ・「クラブ計画」「行動計画」を作るのは、各クラブいろいろな考えがあるからそれでいいでしょうが。取りあえずローリングなので3年は数字を入れていただくのと、ラーニングになると、ただ講師を呼んで行なうというのも良いですが、炉辺会合とか情報集会とかでコミュニケーションを取って、ロータリーのことをわかってもらうということがお互いよろしいのではないか。
- ・例会のテーブルの席替えを年4回やっていると多くの会員とコミュニケーションが取れる。

---

## D テーブル

ファシリテーター：中込 仁志ガバナーニミニー（鎌倉 RC）

井上 勝典（足柄 RC）

蜘蛛 匠（伊勢原平成 RC）

樋田 修（大和田園 RC）

相澤 宏紀（相模原橋本 RC）

阿部 修之（藤沢北西 RC）

議事録：地区ラーニング委員会 東 学（伊勢原 RC）

① 研修からラーニングに呼び名が変更されたことをどのように思われていますか？

- ・ファシリテーターは一緒に勉強しロータリーを理解するためのツール。
- ・一緒に同列で教えあうものと考えている。
- ・クラブでは今年はとしては研修委員会として残した。ラーニングに対して理解が出来なかつたので今季、学んでから来期に考えたい。
- ・日本人には今まで通り研修委員会があつてはいると思っている。横文字に対する抵抗感がある。
- ・ロータリーは研修が多すぎるが研修は誰が誰に向かって行うのか整理されていなかつた。研修する側の基準は考えられているのか、人によってロータリー観の違いがないか、などの疑いがあるので一緒に学んでいくラーニングに変わつたと理解している。

② ファシリテーター、参加者で学んでいくやり方をクラブはどのように受け取られると思いますか？

- ・研修ができる人が居るか居ないかも分からぬ状態からラーニングに移行することはできるのか、ファシリテーターが発言をされないのであれば参加者がよく分からぬ形になつてしまふのではなかつ、まずファシリテーターを育てる期間が必要で急な変更は混乱を招くのでは？
- ・細則はラーニングに変えたが一緒に同格で学んでいくのは難しいと思っていて研修があつてはいる。新人とベテランに知識の差があるので同一に学んでいくのは難しい新人が育つてようやくラーニングができると思う。
- ・クラブに何でも答えられるスーパーロータリアンが居るのでその人に近づくように勉強しているが、ファシリテーターはフォローをしながら一緒にやっていく事ではないか。
- ・クラブの PG がメンバー全員にロータリーのイロハを話しているがその時は研修という言葉を使う。ファシリテーターは会議を円滑に進め意見、結論はしない、経験に基づく知識を話す人はコーディネーター。

③ これから勉強するにあたり、事前に話題を決めて参加者に勉強してきてもらひ発言を聞いてもらう場所にする。これについてどう考えますか。

- ・参加者がある程度のレベルでないと成立しないと思う。ロータリーは何年かに一度大きく変わる部分があるので数年かけてゆっくり成長すればよいと思う。年に 2~3 回の研修がある。研修委員長は G,AG, の決まりはない。
- ・研修は会長経験者が卓話の時間に年 2 回ぐらい行う。
- ・クラブが若いのでみんなよく分かっていない
- ・今月 5 人入会するので研修が必要。その人たちに現実問題としてロータリーのイロハを研修しましょうと伝え方が分かる。回数を積み重ねてラーニング、ファシリテーターをわきまえるまでには時間がかかる。

④ ロータリーの歴史の誘導をするのは研修委員会だと思うが人によってロータリー観、ロータリー論が違うので研修の統一性がないのに疑問があった。そのように思ったことはありましたか？

- ・クラブが古くなる、会員が多くなればそれはある。年長者から寄っていかなければいけない。
- ・クラブ単位でも思いが違う。強く言う人の意見に寄って行く事になる。
- ・そこは気を付けないと会員の退会につながってしまう。
- ・後から入会した会員の意見はどこで言えるのか？
- ・うちのクラブは意見が言える。ロータリーの寛容の精神がある。
- ・年齢は関係なく話は聞いてくれる。チャーターメンバーが教えてくれたから今がある。  
進んでアドバイスをくれる。
- ・組織の方針をどの様に具体的にしていくか。
- ・ロータリーの楽しみ方は色々あるのでクラブ内の情報だけでなく他クラブの事を学べると良い。
- ・来年から RI はテーマをなくし、今年度から 3 年間のガバナーで同じ目標を立てる。各クラブも 3 年間の会長で共通の目標を作ってもらう単年度の弊害がなくなるのでは。
- ・RI の指針に従いそこからガバナーが抽出した目標を唱えたらそれを我々は推奨すべきである。
- ・ラーニング委員会のクラブ間交流が合っても面白い。ラーニング委員会は各クラブでロータリーの行動計画について話してもらいクラブでどんな事をするのか。そのために必要な知識がある。
- ・研修からラーニングに代わる事で人を集めやすくなる。
- ・年長者は黒子になる事も必要だと思う。
- ・委員長は勉強された方、スピーカーは少し若めで間違いがあったら訂正する委員会のあり方が良いと思う。
- ・インプットだけでは頭に残らないので、アウトプットしないといけない。ロータリーの歴史、ロータリーとは、をまなぶ事と行動計画を考える事をしないといけない。
- ・押し付けるのではなく自発的に学んでもらう雰囲気を作ることが必要。
- ・オフィシャルではないがお酒の席も良いのでは。
- ・新会員にはゆっくり教えていくスタンスである。委員会を毎年変えて卓話をしてもらい学んでもらっている。委員長になると勉強する。3 年～5 年の人を集めて炉辺会合を行っている。

#### まとめ

- ・基本的には研修からラーニングでやる事は変わらないが各クラブともロータリーの歴史勧の共有が必要、クラブの行動計画を伝えるのも必要である。それらをラーニング委員会が受けやるべきである。ただ、一方的な話だけではなくて参加者の意思疎通を諮りながら一緒に学んで行くスタイルが望ましい。

---

閉会挨拶： 中込 仁志 ガバナーノミニー

皆さん、お疲れ様でございました。私も研修委員会に 3 年関わりましたがラーニング委員会として今回の試みは良かったと思いました。小さい規模で構わないと思いますので各クラブでこれを実践していただくのがまず第一歩だと感じています。私のテーブルではファシリテーターとはコーディネーターとはと質問がありましたので、ラーニング委員会で一定の基準、見解を統一して、それをもって各クラブでご活躍していただきたい。各クラブの事情を聴く事が出来て参考になりました。又このような機会があれば参加していただき意見交換させていただければと思いました。